

タイトル	<i>Love is Walking Hand in Hand</i>				
著者（文・絵）	Charles M. Schulz				
出版年	2012 年	出版社	Cider Mill Press Book Publishers		
翻訳版	『スヌーピーの大好きって手をつないで歩くこと』谷川俊太郎訳、主婦の友社 2008 年				
総語数	235 語	ページ数	64 ページ	YL レベル	N/A
あらすじ					
見開きの左ページに“Love is...”で始まる一節が示され、右ページにはコミック『ピーナツ』の人気キャラクターのイラストが添えられた詩集です。					
紹介					
<p>日本でも大人気のスヌーピーの生みの親、Charles M. Schulz による絵本です。コミック『ピーナツ』でおなじみのキャラクター、Charlie Brown, Sally Brown 兄妹と Lucy, Patty をはじめとした兄妹の友達、そして Charlie の飼い犬 Snoopy がイラストに登場します。人気キャラクターのイラストが詩の一節に添えられ、文字内容を視覚的に補完してくれるので新出語が使われていても、瞬時に新出語の意味を理解することができます。これは、初級者用多読リーダーのイラストと同様の機能です。</p> <p>この詩集はカラフルな装丁で、手に取った読者は「何が書かれているのだろう」と期待感を持ってページをめくることでしょう。装丁だけでなくそれぞれのページには異なる色合いの暖色（赤、ピンク、オレンジ）が使われています。非言語情報としての色の心理効果、その機能がどう文字情報を補うのかを考察するのも興味深いでしょう。掌に収まるサイズのこの本は、装丁、内容もあいまって愛蔵したくなる一冊です。</p>					
指導ポイント・授業活用例・学生の声など					
<p>【文法事項】</p> <p>動名詞</p> <p>Love is <u>walking</u> hand in hand.</p> <p>【授業活用例】</p> <p>本書は、詩集のため総文字数は少ないのですが、本書のテーマでタイトルにもある love をテーマに、さまざまな学習活動をデザインすることが可能です。</p> <p>Lesson 1</p> <p>① ワールドカフェで love から連想されることを出し合う（本 HP のアクティビティー</p>					

欄「ワールドカフェ」参照)。

- ② love の定義を、動名詞を使い自分のことばで書く。“Love is …”
- ③ その定義にぴったり合う自作イラストや写真を添えたカード、ポスター、パワーポイント・スライドを作る。
- ③ 小グループあるいはクラス全体で作品を発表し講評しあう。
- ④ 辞書を使って love の定義を調べて、自分たちの定義と比較する。
- ⑤ 【宿題】作家等、著名人による love の定義を調べる。

Lesson 2

- ① 宿題の発表
- ② 書画カメラを用いて *Love is Walking Hand in Hand* を読み聞かせする。
- ③ 1 節ずつイラストを示し、新出語があれば説明する。
- ④ 発音を確認しながら教員のあとについて読み上げる。
- ⑤ 各自、好きな一節を選び、その理由を考える。自分自身のエピソードを添える。
- ⑥ 小グループで発表する。

Lesson 3

- ① *Love is Walking Hand in Hand* を再度、教員のあとについて音読する。
- ② 小グループで朗読または群読練習し発表する。
(本 HP、アクティビティー欄「群読」参照)

Lesson 4

- ① 小グループで、各メンバー “Love is～” の文を 2 つカードに書く。
- ② 全員のカードを並べて、1 つの詩にするために順番を考えて配置する。
- ③ それぞれの 1 節にイラストや写真を添えて、1 冊の詩集に仕立てる。
- ④ 全グループの詩集を鑑賞するギャラリータイムを行う。

その他の活動

- ① 作者の生い立ちや活躍を調べ、自分のことばで伝記を書く。
- ② 好きなキャラクターになりきり日記を書く。
- ③ love をテーマに五行詩を書く (アクティビティー欄「五行詩」参照)
- ④ 和訳を試み、谷川俊太郎訳と比べる。
- ⑦ 本書から好きな 1 節とイラストを選び、短い脚本をつくり演じる。
(本 HP、アクティビティー欄「寸劇 (ドラマ)」参照)

【指導のポイント】

教室ではクラスの誰かが、スヌーピーのグッズを持っています。導入時、「このキャラクター知ってる」「好き」と言う声がかしこから聞こえてきます。学生の心をつかむのに時間はかかりません。しかし、英語学習者向けに書かれた文ではないため、学生によってはわからない単語があり、ピントこない一節もあります。学習者にとって英詩は、字義的には理解できても、心から共感することが難しいことが多々あります。絵を手がかりに知らない語句の意味を推測してもらい、それでも分からない場合は教員から説明をする、辞書で調べるなど、足場掛けをする必要があるでしょう。さらに、イラストを手がかりにキャラクターの動作を真似て言ってみる、身体動作を伴った朗読や群読をすることで、表層的な理解から身体的・生理的な理解へ誘うことができるでしょう。

関連作品・参考 URL

Charles M. Schulz (1922-2000)は、言わずと知れた世界中で大人気の漫画家です。シュルツ漫画は可愛らしいイラスト、誰の身の回りにもいそうな登場人物とユーモアが、その人気の秘密です。シュルツの人間に対する観察眼と温かい心から生まれた漫画は、人生の機微に溢れています。彼の作品には日常言語で書かれた数々の名言が散りばめられており、『チャールズ・M・シュルツ 勇気が出ることば』（角川書店、2013年）等にも編まれています。

作家シュルツについては、以下が参考になります。

- ・ 『スヌーピーと生きる—チャールズ・M・シュルツ伝』リタ・グリムズリー・ジョンソン他著、朝日新聞社、2000年
- ・ 『スヌーピーの父 チャールズ・シュルツ伝』デイヴィッド・マイケリス著、亜紀書房、2019年
- ・ 『スヌーピーの50年 世界中が愛したコミック「ピーナッツ」』チャールズ・M・シュルツ他 著、朝日文庫、2004年
- ・ オフィシャル・サイト“Charles M. Schulz Museum 1”でも、シュルツと彼が生み出した作品に関する詳しい情報を得ることができます。<https://schulzmuseum.org/>

絶版ですが、もう一冊 love をテーマにした絵本を紹介します。

- ・ Joan Walsh Analund. (1996). *What Color Is Love?* New York: Harcourt, Brace & World. *Love is Walking Hand in Hand* より、さらに平易な英語で書かれています。本書は、教室で複数の絵本を同時に紹介すると、「これが一番好き」という学生が多い作品です。入手できたら、ぜひご覧ください。